

## 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	実践基盤看護学 分野 基礎看護学 領域	学籍番号	218606
		氏 名	平谷 由香
論文題目	外国人看護師の職業的アイデンティティの移行状態		
キーワード	外国人看護師、職業的アイデンティティ、移行		
<p>【背景および目的】</p> <p>日本では看護職員が不足しており、深刻な人手不足となる。2008年より経済連携協定に基づき外国人看護師（以下、EPA看護師）の受け入れが開始され、看護の担い手として期待されている。しかし、EPA看護師には、日本の病院で働く上で、言語・組織文化の違い・自国と異なる看護の状態などの葛藤がある。看護専門職としての葛藤は、看護師としてのアイデンティティを揺らがせる。EPA看護師にとって、日本の看護師としての職業的アイデンティティがうまく形成されることは、看護実践の質が向上すると共に、働きやすくなることにつながる。そこで、本研究ではEPA看護師の職業的アイデンティティの移行状態を示し、アイデンティティ形成を促進するための支援の方向性を見出すことを目的として行った。</p> <p>【方法】</p> <p>EPA看護師が日本の看護師としての役割を果たす様を、職業的アイデンティティを形成する過程と捉え、メレイスの移行理論を視座として、臨床におけるEPA看護師の様相を明らかにした。対象者は、日本の同じ病棟で1年以上看護師として勤務している者とし、機縁法で募集した。調査期間は、2019年7月1日から10月31日とした。データは、半構造的インタビューで収集した。分析にはSteps for Coding and Theorization（以下、SCAT）を用いた。SCATは、生成した構成概念を紡いでストーリーラインを書き、理論記述を得ることを目的としている。本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した（承認番号：190502）。</p> <p>【結果】</p> <p>対象者は7名であった。平均年齢は<math>32.1 \pm 2.8</math>(S.D.)歳であり、日本における看護師の経験年数の平均値は<math>3.0 \pm 0.5</math>(S.D.)歳であった。インタビューの平均時間は<math>46.6 \pm 9.4</math>(S.D.)分であった。対象者の語りから、【情報の伝達・共有】【ケア】【調整】【患者】【家族】【管理者/指導者】【看護スタッフ】【医師】【他職種】、【環境】の10項目の理論記述を得た。</p> <p>【考察】</p> <p>理論記述ごとに、メレイスの理論枠組みのうち、健全な移行の状態および困難な状態を示すと共に、移行に影響を与える促進要因と阻害要因を個人的条件、組織的条件、文化的条件に分けた。EPA看護師には、支援的な状況もあったものの、日本で初めて経験するケアに戸惑う状況、スタッフや患者/家族との人間関係構築に困難がある状況、差別を受け存在が揺らぐ状況、研修制度が曖昧な状況などが示され、職業的アイデンティティの移行は不健全な状態もあると考えられた。また、移行を促進させる個人的条件には、困難に向かう信念や仕事に対する責任感があること、組織的条件には、支援的なスタッフがいることや日本語の支援があること、文化的条件には、EPA看護師を理解しようとする患者/家族が居ることや仲間が居ること、などが挙げられた。</p>			